

(成果情報名)		
山ウドの促成用根株養成における施肥窒素量と立茎数		
[要約]		
山ウドの促成用根株養成において、株分け株における施肥窒素量は 10a 当たり 10kg が適量であり、また、株分け四年育成株における立茎数を 2 本にすると、一株重が重く着生芽数が多くなるうえ、促成した山ウドの一芽重が重く茎径が優れる。		
茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所	成果 区分	技術参考

1. 背景・ねらい

一般的に促成には株分け四年生株が利用されているが、一年生株（株分け株）でも促成は可能である。山ウドの根株養成において、施肥窒素量が過多となった場合や萌芽数が多くなる四年生株等大きい株では、立茎数を制限しないと充実した根株が得られない。

そこで、促成用根株養成をねらいとした最適な、一年生株における施肥窒素量と、四年生株における立茎数について検討する。

2. 成果の内容・特徴

1) 株分け株における施肥窒素量

①一株重、着生芽数は施肥窒素量の違いによる差はない（表 1）。

②促成山ウドの一茎重、茎径、そして総重量は施肥窒素量の違いによる差はみられない（表 2）。

これらのことから、一年生株(株分け株)の施肥窒素量は 10a 当たり 10kg でよい。

2) 株分け四年育成株における立茎数

根株の一株重と着生芽数、及び促成した山ウドの一茎重と茎径は、2 本立茎区で優れた（表 3 表 4）。

これらのことから、株分け四年育成株の立茎数は 2 本にするとよい。

3. 成果の活用面・留意点

1) 県下全域に適用できる。

2) 3 回前後に分け施肥し、8 月下旬までには終了させる。

3) 倒伏を防止するため草丈 120 ～ 150cm で摘心する。

4) 大きい茎を立茎させる。

4. 具体的データ

表1 施肥窒素量と収穫根株

施肥窒素量	一株重 (g)	着生芽数/株※ (芽)
10kg	958.6	4.9
17kg	1055.6	4.2
25kg	976.6	4.4

注) 株分け株を供試 植え付け平均1株重 339g/株 ※芽径10mm以上

表2 施肥窒素量と促成山ウド

施肥窒素量	茎長 (cm)	平均一茎重 (g)	最大茎径 (mm)	促成総重量 (g)
10kg	37.7	67.8	19.3	3253.3
17kg	36.2	67.4	19.8	3234.5
25kg	37.5	68.5	18.3	3149.9

注) 株分け株を供試 1月21日ふせこみ 収穫期間2月14日～2月28日
ふせ込み株重997g/4.5芽 総重量は10株当たり

表3 立茎本数と収穫根株

立茎数	一株重 (g)	芽数/株※ (芽)
1本	2430.4	6.4
2本	2582.9	7.3
3本以上	2193.8	7.5

注) 株分け4年育成株を供試 ※芽径10mm以上 施肥窒素量は17kg/10a

表4 立茎本数と促成山ウド

立茎数	茎長 (cm)	平均一茎重 (g)	最大茎径 (mm)	促成総重量 (g)
1本	37.3	66.1	19.5	2148.0
2本	36.3	75.3	20.9	2280.0
3本以上	36.1	55.4	18.6	2603.7

注) 株分け4年育成株を供試 2月3日ふせこみ 収穫期間2月25日～3月2日
ふせ込み株重1,298g/6.6芽 総重量は10株当たり 施肥窒素量は17kg/10a

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

山間地帯特産作物の天然資源を利用した促成栽培技術の開発・平成13～17年度
山間地帯特産指導所